

連携・支援部会 活動報告書

部会長 高橋 知音

1 今年度の取組

(1) 発達障がいサポート・マネージャーの役割整理

- ・県内の支援者が発達障がいサポート・マネージャーの役割（支援者の支援）を理解するためのリーフレットの原案を検討した。これに基づいて、さらに詳しい説明を載せたガイドブックを作成する（予定）。

(2) LDのライフステージにおける教育と医療との連携を整理

- ・診療体制部会との合同部会を開催した。
- ・県教育委員会から、「高校入試における合理的配慮」「信州型UD研修の進捗状況」「LD等通級指導教室の状況」等の説明を受け、情報の共有をした。
- ・主に高校入試での合理的配慮を受けるための資料となる、小学校から高校の間の「LD児の支援の理想フロー」を作成（予定）。

2 今後の方向性

(1) 発達障がいサポート・マネージャーの業務を通して、発達障がい者支援における県の課題を整理

- ・リーフレットやガイドブックを活用する中で、内容面の修正の必要性等があれば「発達障がいサポート・マネージャー連絡会議」で共有し、部会での協議を参考にブラッシュアップしていく。
- ・サポートマネージャーの活動を通して見えてきた、発達障がい者支援における県の課題を「発達障がいサポート・マネージャー連絡会議」でまとめ、部会で解決の方向について検討する。

例：発達検査等を実施できる専門的な人材の不足

発達障がい児が利用できる障害福祉サービスの事業所不足

発達障がいを診断できる専門医の不足 等

(2) 「LD児の支援の理想フロー」について

- ・理想フローのような支援が難しい原因や課題を整理し、対応について検討する。
- ・広く県民に周知するための方法等を整理
- ・教育機関（特に管理職）、医療機関における理解促進の方法を整理
- ・他の発達障がいの支援フローの必要性を検討

(LD児の支援フローを3年程度活用した後を目安に)

3 来年度取り組むべきこと

- 「LD児の支援の理想フロー」の効率的な周知方法の検討
- 県教育委員会、診療体制部会と連携し、入学試験等での合理的配慮の根拠資料に必要な要素（検査、診断等）が、県内どこでも揃えられる体制整備について検討
- 発達検査等ができる人材の把握（人数、立場、実施できる検査等）について検討